

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4270102801		
法人名	有限会社 さくらんぼ		
事業所名	グループホーム さくらんぼ		
所在地	〒852-8144 長崎県長崎市女ノ都3丁目1-6 (電 話)095-847-8440		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成21年2月10日

【情報提供票より】(平成20年10月27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 平成 14年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	11 人	常勤 4 人 非常勤 7 人, 常勤換算 6.8 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000円
敷 金	有(円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(10月27日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.8 歳	最低 83 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	飛永内科医院・久保歯科クリニック・聖フランシスコ病院・特別養護老人ホーム女ノ都山荘
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の一画にあり、近くには病院・保育園・公園があり、ホームの屋上からは女神大橋やハウステンボスまで見る事ができ、景観や生活条件に恵まれている。母親を思う気持ちから開設に至り、青い実が単独ではなく寄り添いながら赤く熟していく「さくらんぼ」と命名して、入居者と支え合いながら家族として生活を共にしている。地域の中に溶け込み、社会貢献に努力されているご主人の協力でホームの充実が図られている。手書きの「さくらんぼ便り」や書式を分かり易く変更する、年2回職員の自己評価を実施する等、職員の努力が随所に見られ、少人数の一人ひとりを大切にしながら、自由な生活の様子が入居者の笑顔から窺う事が出来、今後益々期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価を運営の見直し的一端と受け止め、メモをしながらの評価受審の姿勢であった。改善項目に対して改善計画シートを作成し、思いや意向の把握に関しては基本情報の書式を変更し、生活歴や現在の入居者や家族の主訴への理解に繋げ、介護計画はサービス内容に番号を付け、それに沿った実施記録の記入等、積極的に取り組み随所に工夫と努力の姿勢が見える。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員に自己評価表を配布して、全体会議で昨年度の評価項目を振り返り、話し合いを行っている。前年度とはあまり変化がないが、見直しを実施する事で、ケアの向上に反映している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は3ヶ月毎に開催している。地域包括支援センター・民生委員・自治会長・公民館長・入居者(全員)・家族・ホーム側を構成メンバーとして、多岐に亘る話し合いや、それぞれの立場での建設的な意見を出し、有意義な会議を開催している。会議は昼食をはさんで行い、参加者にホームを見ていただき、認知症の理解に繋げることができ、成果が顕著に見え、運営に反映されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホームの様子は手作りの「さくらんぼ便り」で家族にお知らせし、玄関に木造り(鍵つき)の意見箱を置き、傾聴の姿勢を表している。家族の訪問は頻繁であり、来訪時には話をし、帰り際に変化を含め意見や希望を聞いている。運営推進会議に複数の家族が参加しており、日頃から交流を図っている。退居した家族が敬老会や母の日の会に参加する事があり、関係の充実の成果である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営者の家族が、長年この地域で生活しており、掲示板にホーム便りや情報を貼り地域に発信をしたり、地域の人との交流は以前からあり馴染みの関係である。近隣の人に非常時の協力依頼と同時にホームの平面図を配布している。また、毎朝の散歩で挨拶を交わし、公園の花壇の一部を担当したり、保育園児の遊戯会の予行練習の見学や地域の行事に参加し、「さくらんぼ」をアピールしている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「地域との交流を図り、家庭的な環境の中で個人の尊厳が保たれ、健康で明るく自分らしい生活が送れるよう支援する」として、地域住民と関わりを持ちながら、それぞれの入居者が家に居るように、その人らしい生活を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向けて、3ヶ月毎にスタッフの努力目標を掲げ、実践に努力している。入居者とは目線を合わせ、笑顔で過ごす事に重点を置いている。毎月発行する便りに理念を盛り込み、ホームの掲示板やホーム内に掲示し、職員・訪問者また地域に理解されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者の家族が長年この地域で生活しており、地域の人との交流は以前からしている。近隣の人に非常時の協力依頼と同時に平面図を配布している。また、毎朝の散歩で挨拶を交わし、公園の花壇の一部を担当したり、保育園児の遊戯会の予行練習の見学や地域の行事に参加し、「さくらんぼ」をアピールしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議で昨年度の評価項目を振り返り、話し合いを行っている。前年度とはあまり変化がないが、改善項目に対して改善計画シートを作成し、積極的に取り組み随所に工夫と努力の姿勢が見える。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月毎に開催している。地域包括支援センター・民生委員・自治会長・公民館長・入居者(全員)・家族・ホーム側を構成メンバーとして、多岐に亘る話し合いや、それぞれの立場での建設的な意見を出している。参加者にホームを見ていただき、認知症の理解に繋げることができ、成果が顕著に見え、運営に反映されている。		

グループホーム さくらんぼ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者のご主人が社会活動に積極的であり、車椅子の提供や協力をする事で、市町村との交流は出来ている。地域包括支援センターに便りを届け、密接に関わりを持っている。今後は市町村が主催する認知症の方とのコミュニケーション法の1つである「パリデーション」に関するスタッフ研修を受講する予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「さくらんぼ便り」には、手書きで挿絵・理念・一句・行事等を載せ心温まる便りを発行し、家族や読んだ人に非常に好評である。また、病院受診後には家族に電話でお伝えしている。便り・領収書(立替で金銭は預かっていない)を請求書と一緒に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に木造り(鍵つき)の意見箱を置き、傾聴の姿勢を表している。来訪時には話をし、帰り際に変化を含め意見や希望を聞いている。運営推進会議に複数の家族が参加しており、日頃から交流を図っている。退居した家族が敬老会や母の日の会に参加する事があり、関係の充実の成果である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は家庭の事情等ではあるが、基本的に少ない。職員の思いや様子に注意を払い、ストレスを溜めないように配慮し、働きやすい職場を目指している。また、常に入居者を中心に支援しており、統一したケアにより安心した生活支援を実施している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の全体会議は年2回開催している。入居者に関するカンファレンス会議は事前に職員の意見を聴取し、意見を踏まえている。研修(食事や薬に関する勉強も含め)は積極的に受講し、研修内容は資料を添付して、全職員が閲覧(読んだ人は捺印)をし、共有を図っている。また、年2回職員の自己評価を実施し、自己検索に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎グループホーム協議会は地域ごとに研修を実施し、毎月持ち回りで研修を実施しており、相談をする事もあり、交流の機会が多い。時には他ホームの方が運営推進会議に参加し、助言や意見を聞く事が出来、運営に反映している。また、協議会で空室状況を共有するネットワーク作りが出来ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は自宅からが多いが、病院の退院時もある。家族の相談を受け、必ず体験入居(2泊3日位)をして頂き、互いに知り合い、入居検討会議を開催してから入居に至っている。時には気に入ってそのまま入居になるケースもある。家族の希望に沿って家庭的な生活支援を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	現在の入居者は全員女性であり、祖母のようにおやつを頂いたり、優しくしてもらうことがあり、感謝の言葉を交わしながら、共に暮らす仲間として楽しい生活をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者台帳の項目を見直し、入居者や家族の意向を含め、現在に至った経緯が分かり易く、詳細な記述を行うことで、生活歴が把握できる。また、基本情報に必要な身体状況シートを作成し、入居者や家族との関わりを加味し、思いや意向の把握に努め、実現に向けた支援に努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向と職員の意見や気付きを基に、サービス内容は番号を付け詳細に記述しており、誰が見ても分かり易い統一したケアが出来ることを念頭に置き、介護計画を作成している。作成後は家族の了解を得るとともに、医師に送付している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の現状を正確に把握する為、個別の実施記録に介護計画のサービス番号に沿って記入している。毎月モニタリングを実施し、3ヶ月や必要に応じて、医師・職員の意見書を踏まえて、継続する内容と変更する内容を検討し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者とその家族とは常にコンタクトを取りながら、6名という少人数だからできるケアを実践している。天候に応じた外出(時には近くの公園で外食・ドライブ先での食事等)や隣接した医院との連携・家族の宿泊・体験入居・地域との交流等、柔軟な支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する協力医院により、受診や往診を含め、24時間支援体制が築かれており、入居者や家族の安心に繋がっている。必要に応じては訪問看護を受ける等、状況により適切な医療を提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	以前終末ケアの経験があるが、現在は医療連携加算は取っておらず、ホームとしても今後どのような方法で入居者の看取りを実施していくか検討中である。	○	高齢者を考えると終末ケアは避けては通れない部分である。入居時にホームの指針を明確にした文書で同意を頂き、段階に応じて、医師・家族・ホームで話し合い、方向性を決めて同意書を交わし、状況は経験を次に繋げる為にも看取り記録として残し、全員でよい方向に向けた取り組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は女性の入居者の気持ちを理解し、排泄時には耳元での誘導やバスタオルを膝にかけ分からないようにしたり、入浴時と同様であり、プライバシーに配慮した支援をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れはおおまかに決められているが、固執する事はなく、朝が遅い人は声掛けをして、様子を見ている。常にその人の好みを聞き、出来る限り入居者の意向に沿えるように努力している。		

グループホーム さくらんぼ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は下ごしらえ・茶碗拭き等食事に関する一連の作業の中で、できる事に力を発揮している。ホームで作った野菜が時には食卓を飾る事がある。職員は介助するだけでなく、同じ物を一緒に食べながら会話を楽しっており、大家族の食卓風景である。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を基本にしている。一人ひとりに合わせており、浴室に時計を掲げ、無理にならないように工夫している。拒否者には説得して入浴支援をし、清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人に合った楽しみを大切にして、お酒の好きな人にはお祝いや行事等で見守りながら提供している。日常生活の中でできる事は率先して行い、編み物をしたり、特に歌が好きの人が多く、テレビを楽しんでいる。入居者の状態を把握しながら生きがいに繋がる支援をしている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物は日常的にしている。天気の良い日はドライブ(ホームで車椅子が可能な車種を保持)に出かけ、外食をする事がある。また、おくんちにはジャンボタクシーをチャーターして見物に行く事があり、状況を見ながら楽しみを取り入れた外出支援を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはチャイムを設置し、出入りが分かり易いように玄関に近い場所に炊事場を変更している。玄関から入って直ぐの場所に居室があり、玄関先は幹線道路であり、外出願望者に対応できない時間帯の数時間は鍵をかけることがある。現時点では家族とは暗黙の了解を得ており、書面を交わしてはいない。	○	日中の数時間であり、入居者の安全を守る為の施設である事を家族は理解されているが、家族に相談や説明し、同意書を交わし、一定期間を決めて、経過記録を作成・添付し、見直しを行いながら支援する事が望まれる。
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災・避難訓練を実施している。地域の住民にホームの見取り図を配布し、非常時には拡声器(サイレン付き)で助けを呼ぶ準備や訓練をしている。職員全員そろっての訓練は、勤務上困難であり、全員が訓練できるように何日か費やしている。今年度はスプリンクラーの設置に伴い実際に訓練をし、努力している。しかし、地震の訓練や備蓄に関する準備は不十分である。	○	火災・避難に関しては非常に努力が窺えるが、夜間の訓練を取り入れられる事が望まれる。また、地震を想定した訓練の実施や、非常時の備蓄(水・食料・携帯コンロ・非常時に持ちやすい懐中電気等)やホームで必要不可欠な持ち出し品の把握に関して、職員全員で検討されることが期待される。

グループホーム さくらんぼ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスを大切にして、長年施設で勤務していた管理調理師が入居者の状況に合わせ、刻み食等に変え、時には医師の指導を仰ぎながらメニューを組み立て提供している。食事量を記録し、水分は1,000cc以上になるように、排泄を加味して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは一般家庭的で、バス停の横にあり、掲示板を掲げバスの利用者や地域に情報を発信している。玄関先には季節の花を育て、クリスマス・ランタン・七夕等季節の飾りをしている。バス道路に面しているがホーム内は騒音を感じることはない。換気も良く、異臭もしない。ソファやベンチを置き居場所を確保している。又、毎日、カレンダーの終わった日にちの上に折り紙を貼り、今日が何日か理解するようにして、時の見当識の支援と繋げている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者の希望で、フローリング(寒い時期にはパーツを組み合わせる絨毯を敷き)や畳にしている。入居者は家族の写真や、愛着のある品々を持ち込み安心して過ごせるように工夫している。		